令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『未活用の資源を利活用し、

観光業×六次産業化で稼ぐ力をつける』

活動団体の活動地域：座間味村阿嘉島及び慶留間島
活動団体名　　：阿嘉島産業興しの会
中間支援主体名　　：阿嘉区

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域資源を活用し、経済的自立を目指すとともに、行政に頼りすぎず自立した地域づくりをする。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

間違いや失敗は当たり前なので、楽しんでやる事を心がける。
人口が200人程度なので、課題の共有、「話し合い」を大切にして取り組んでいく。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

・製塩事業の事業計画づくりを行う
・空き家の賃貸、売買への取り組み
・遊休農地の活用に向けた島らっきょうの商品化

地域の現状

・海水淡水化事業で出る濃縮海水が現在は活用されていない。
→濃縮海水を活用した製塩事業。現在は塩の試作品を繰り返し制作中。

・年に1,2回しか帰省しない家（空き家）が約30軒ある。
→賃貸もしくは売買が可能か家主との協議を深める。

・現在活用されていない農地（遊休農地）がある。
→遊休農地の再活用で六次産業化×観光業で稼ぐ力をつける。
島らっきょうの塩漬け商品化に向け、取組中。

【年度当初計画】 3か年状態目標

2026年度末の状態目標

・製塩事業→製品質の向上、販路拡大、売り上げアップ
・空き家→交渉継続、1軒でも賃貸活用に繋げる
・遊休農地活用→作付面積の拡大、販路拡大

2025年度末の状態目標

・製塩事業→資金調達、施設建設、稼働開始
・空き家→1軒でも賃貸活用に繋げる
・遊休農地活用→作付面積の拡大、ブランディング、製品質の向上

2024年度末の状態目標

・製塩事業→計画的に沖縄県内製塩事業者を訪ね、
　　阿嘉島に合った塩づくりへの落とし込みを行っている
・空き家　→あまりしつこく家主に連絡を入れても関係性を崩しかねないので、
　　大きな行事（清明祭や十五夜等）を使い、うまく協議に繋げる
・遊休農地活用→漬物製造許可証の取得、商品開発、関わる仲間を増やす

【年度当初計画】　中間支援の方針

■見立て

・製塩事業においては計画的に沖縄県内製塩事業者を訪ね、阿嘉島に合った塩づくりへの落とし込みを行っている。
・空き家についてはあまりしつこく家主に連絡を入れても関係性を崩しかねないので大きな行事（清明祭）を使いうまく協議に繋げる。
・中間支援として活動団体に無理が生じてないかを注視しリズム感を大事にする。

■打ち手

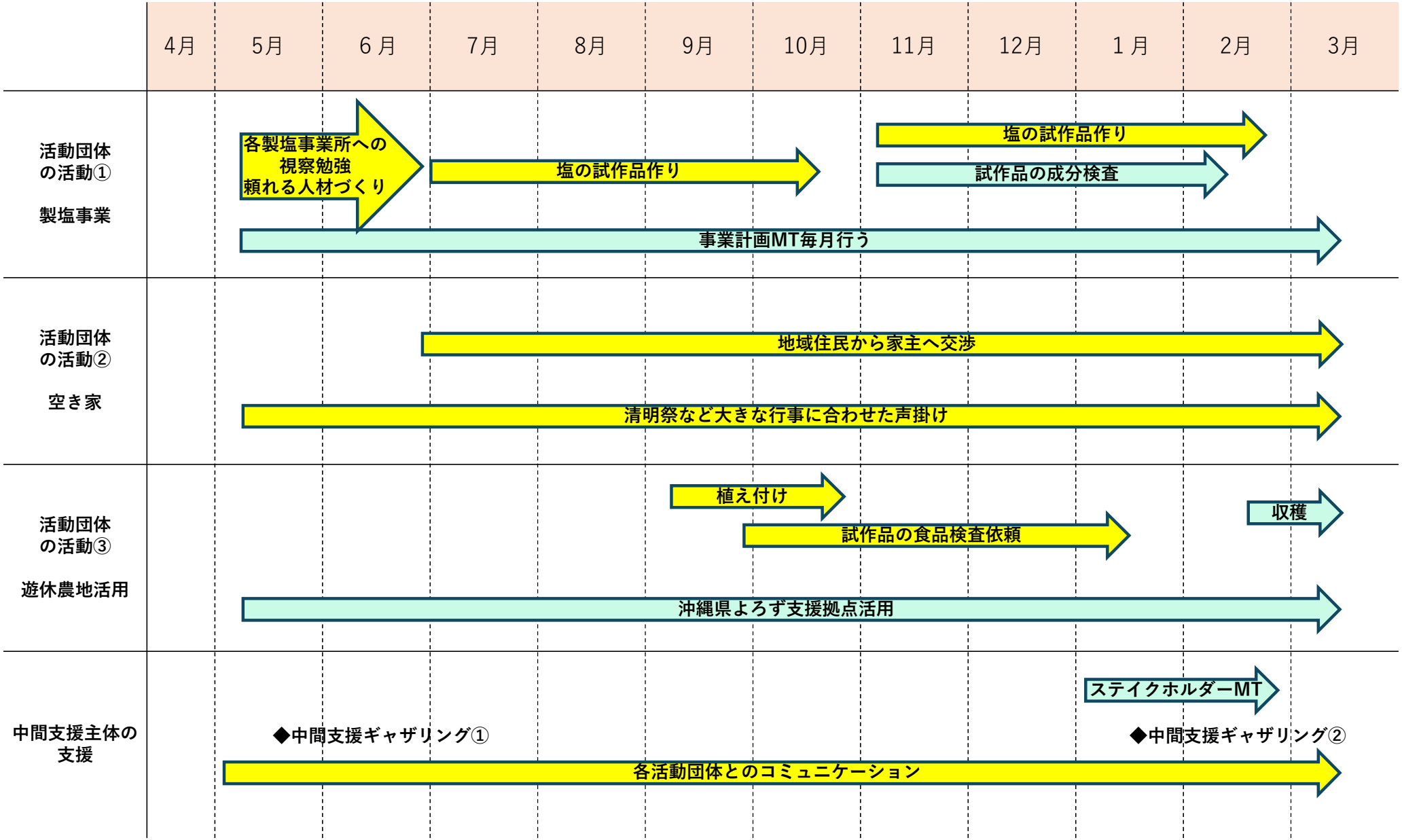
・予算確保におけるメリットを伝え、やる気を維持できるようサポートする。
・楽観的に取り組みながら遊び心をもって楽しんで取り組めるようにする。
・初めから100点満点があり得ない、求めない。１点でも動いたことを良しとする。

■中間支援機能の強化・振り返り

声の大きい人の意見が通りやすいご時世ですが、地域で幅広く意見が言える土台を整える。問題、課題の共有を行い、「どうすればいいか？」を一部だけで決めないで、全体で当事者意識を持たせる取り組みを進める。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

【事業を生み出す】先進的な事業を学び、自分たちの形にアレンジする

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

製塩に関しては沖縄では広く行われているので課題はあるにしても、実現可能な取り組みである。

- **具体的な支援内容（打ち手）**

沖縄県企業局と連携を取りサンプル水をもらい試作品づくりを行った。視察も４事業所を巡ってもらい学びを深めてもらいました。

- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**

当事者意識が芽生え課題解決に向け試行錯誤が活発になりました。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

百聞は一見に如かず。経験してもらうのが一番大切だと思いました。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

活動名：製塩事業

時期：2024年4月～

- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

活用されていない資源を活用することで、阿嘉島ブランドの商品を作り、稼ぐ力をつけるため。また、雇用創出による働く場所づくりから定住促進に繋げるため。

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

住民の関心も高まり、事業化の際には協力者の増加が望めるようになった。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

【地域のビジョンを描く】ありたい未来と現状との差を把握する。問題を先延ばしにしない。

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

家主と話せる人材を探す事が最優先でした。先輩方（60、70代）の協力体制をどう作るかが課題でした。

- **具体的な支援内容（打ち手）**

移住したいニーズがある事。学校統廃合が目の前まで来てる事の周知。

- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**

課題は分かっているものの「家」というデリケートな問題に綱渡り状態になってしまいました。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

嫌われ役になってでも大きな波紋を起こさないと変わらない。個人レベルまで噛砕いて説明しないとわかってもらえない。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

活動名：空き家

時期：2024年10月～

- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

人口減少、過疎化、人材不足を解決するため。

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

阿嘉島への移住希望者が現れ、空き家数軒の家主へ問い合わせを実施。実際に家の中を見学したりと進捗アリ。

また、今後座間味村役場が間に入り、交渉がうまく進められるようサポートしてくれることが決定した。

活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前２スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
協働のプロセス	プロセス支援	（7）③	「出来たらいいな」が地域活性に繋がっていくのを感じた
チェンジ・エージェント機能	変革促進機能	（1）	新たな課題が出るたびに話し合いをした
チェンジ・エージェント機能	問題解決提示機能	（2）	阿嘉区と役場との意見交換会

- **共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか**

役割分担を行い、活動団体の中でも負担が集中しないようにした。

みんな仕事の合間にしか動けないのでカメの歩みを良しとした。

「楽しむ」を中心に考えてもらった。

- **中間支援主体として向上したと思う中間支援機能**

阿嘉区として責任を持つことで、この事業以外のところでもリーダーシップを持てるようになった。

相談がしやすくなった。

難しく考えなくなった。

- **R6課題だと感じたこと**

課題はたくさんあるが、「人」がいなければ何もできない事を如実に知ることができた。子育て世代の移住者受け入れが島の存続における最重要課題。空き家活用が一番必要。

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

● **地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるといいと考えているか。R7～中間支援主体として今後どのようになりたいか。**

・中間発表会の様に他の支援主体や活動団体と関わる事がモチベーションUPに繋がると感じました。井の中の蛙になりがちな離島だからこそ島外に出て学ぶ機会を増やしたいです。

・小さな声も拾えるような取り組み（意見箱の設置等）も継続して続けられるようにしたい。

・意味のある話し合いができるよう議案を明確にする。

・期日を付けて先延ばしにしない。

● **活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）**

【塩】海底湧水の採取方法の確立。役場と協働での事業計画課。資金集め。

【空き家】一年単位での賃貸交渉。役場も間にいれての話し合いで信頼度UP。

【遊休農地】島らっきょの生産販売、加工品づくりでお金が生まれる仕組み化。

農業委員会と連携して遊休農地の農地判定及び意向調査。

● **地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと**

・活動団体を巻き込んだ発表会

・メディア（テレビ、新聞、ラジオ）での情報発信。

・有名人が全国の団体を回っての実状調査